

大 学 史 研 究 通 信

第 54 号、2008 年 4 月 30 日（水）

大学史研究会

第 54 号の内容：会員ニュース・新入会員自己紹介・紀要編集委員会、事務局合同会議の開催・2008 年度年会費納入のお願い・事務局担当変更のお知らせ・会員新刊ニュース・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

新入会員

船勢 肇（ふなせ はじめ） 会員

所属： 大阪府立大学大学院

研究テーマ： 日本近現代史，大学自治論，思想史

異動のあった会員

岡田 大士 会員（所属変更）

新所属： 東京薬科大学

福留 東土 会員（所属変更）

新所属： 広島大学

藤岡 真樹 会員（住所変更）

新入会員自己紹介

船勢 肇 会員

この度入会させていただきました船勢肇と申します。よろしく申し上げます。現在は大阪府立大学大学院人間社会学研究科博士後期課程に在学しております。

これまで、滝川事件に関連した滝川幸辰や末川博などの思想研究を試みてきました。滝川と末川は、滝川事件時には行動を共にしながらも、戦後に学生などへの態度をめぐってはコントラストを描きました。それは元々あった法思想や国家論の懸隔が表面化したものだったと考えております。「社会」にどう向き合おうとしたのか、これを重視しています。

大学自治論の論拠に多元的国家論が用いられるケースがあり、その規定性と広がりを検討しています。大学以外の諸機関及び諸団体の議論にも留意しつつ、大学・高等教育論の思想史をテーマにしています。皆様のご指導を賜れば幸甚でございます。

紀要編集委員会・事務局合同会議の開催

紀要編集委員会と事務局との連携・情報共有を促進するために、2月16日に合同の会議を開催いたしました。編集委員会からは赤羽、児玉、古屋野委員、事務局からは井上、岡田、福留、吉野、吉村、福石の新旧事務局員が参加しました。

会議では、大学史研究会の運営上の課題から議論がはじまり、高等教育研究団体の現在の研究動向、さらには日本の高等教育のあり方など、幅広い、かつ積極的な議論が深夜11時まで続きました。そこで、高等教育に関する現在の研究動向や、日本の高等教育の現状を鑑み、大学史研究会の会としてのあり方を見直そうという点で意見が一致し、編集委員会と事務局員によって引き続き議論を続けていくことが確認されました。

また、福留事務局員が広島大学へ着任することとなったため、在京の紀要担当事務局員として岡田事務局員が紀要担当となり、福留事務局員より引き継ぎを受けることが確認されました。

(事務局 岡田大士 記)

2008年度年会費納入のお願い

本年度年会費納入についてお願いのご連絡を申し上げます。

大学史研究会の実収入は会員各位からの年会費に大きくよっております。昨年度、全会員数に対する年会費納入率は57.4%であり、未納会員も少なからぬ状況でした。ここ数年、総会時点での年会費の納入率は6割程度の状況が続いております。そのため、毎年2月には未納会員の方に納入依頼通知を再送するようになりましたが、残念ながらこうした再送願いを行って3年目の今年はその効果も徐々に薄れてきているようです。

前回の研究通信に掲載されております会計報告のとおり、本研究会の財政状態は決して芳しいとはいえません。研究会の発展と円滑な運営のため、なにとぞ会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第です。本年度会費の納入の詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧ください。

年会費は5,000円です。大学院等在学、あるいは日本学術振興会特別研究員の各位には「院生・学生会費（年会費 3,000円）」制度が適用されます。過年度分年会費未納の会員各位には、同封書類に、未納年度と本年度会費分を含めた金額総計をご連絡しております。年会費3ヶ年度分以上の滞納会員には、研究会継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、紀要「大学史研究」等の発送を停止することになっております。該当会員へのご連絡通知には、これに関する事項が記載されておりますので、ご留意願います。

年会費納入払込先

郵便振替口座 大学史研究会 口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座 大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店（店番 671）
普通預金（口座番号 3456109）

(事務局会計担当 杉谷祐美子)

ご所属、ご住所等に変更があった会員の方へ

年度が変わりまして、異動等の理由でご所属やご住所に変更があった会員の方がいらっしゃるかと思います。現在「会員情報ニュース」では所属の変更についてはその内容まで、その他の変更については変更があった旨のみを掲載しておりますが、事務局では発送作業等の関係ですべての情報を管理させていただいております。

郵便局に転居届を出されている会員の方には、郵便にて発送しているものについて、1年間は転送されるものと思います。しかし、裏を返しますと、転送されているために返送されることがないので、事務局には転居の旨は分からず、1年経って届かなくなった際に転居したらしいことが分かるということが毎年起こっております(その後事務局員で手分けしてその会員の現況に関する情報を入手して対応しておりますが、すべてが判明するわけではありません)。各種の発送物が届かなくなりますと、年会費の納入等に影響し、5年以上の未納により会員資格に影響することもございます。

つきましては、異動等された会員の方はできるだけ速やかに事務局にその旨をご連絡いただきますようお願いいたします。連絡は事務局メール(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)で受け付けますが、新住所など個人情報を含むものですので、ご心配の方はパスワード設定した添付ファイルに住所を記入するなどの対応を取っていただければと思います。また、年会費の振込用紙の通信欄にその旨ご記入いただければ事務局で対応いたしますので、そちらをご使用いただいても差し支えありません。

事務局にお知らせいただきましたご所属、ご住所等の情報は、会員名簿作成時の原簿の情報にも反映されます。会員のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

(名簿担当：吉野剛弘)

事務局担当変更のお知らせ

前回の大学史研究セミナーにて、福石賢一事務局員(セミナー担当)が退任し、井上美香子会員が新たに事務局員となりました。また、「紀要編集委員会・事務局合同会議の開催」の項でご報告しましたとおり、福留東土事務局員の転勤に伴い、岡田大土事務局員を紀要担当事務局員とすることになりました。これらに伴い、事務局員の担当を下記のように変更いたしましたので、お知らせします。

	旧	新
セミナー担当：	福石賢一	福留東土
通信担当：	田中正弘・吉野剛弘	田中正弘・井上美香子
紀要担当：	福留東土	岡田大土・福留東土
名簿担当：	岡田大土・吉野剛弘	吉野剛弘
会計：	杉谷祐美子	杉谷祐美子・沖塩有希子(補佐)

紀要については、次回23号の発行を福留事務局員が担当し、24号以降は福留事務局員のサポートを受けながら岡田事務局員が担当します。

沖塩有希子会員については、次回セミナーにて事務局在任満期となる杉谷祐美子事務局員(会計担当)の後任として、事務局より補佐をお願いいたしました。次回セミナーでの承認を受けて、正式な会計をお願いする予定です。

なお、2008年3月で在任6年になる吉村日出東事務局員(現代表)の後継については、編集委員会および事務局による会議により、人選を行う予定です。

会員新刊ニュース

- 1) 潮木守一 著 (2008) 『フンボルト理念の終焉？ 現代大学の新次元』 東信堂
- 2) 安原義仁, 大塚豊, 羽田貴史 著 (2008) 『大学と社会』 放送大学教育振興会
- 3) 塚原修一 編著 (2008) 『高等教育市場の国際化』 玉川大学出版部
- 4) 児玉善仁 著 (2007) 『イタリアの中世大学—その成立と変容』 名古屋大学出版会
- 5) 加野芳正・藤村正司・浦田広朗 著 (2007) 『新説 教育社会学』 玉川大学出版部
- 6) 大塚豊 著 (2007) 『中国大学入試研究—変貌する国家の人材選抜』 東信堂
- 7) 山内乾史 編著 (2007) 『開発と教育協力の社会学』 ミネルヴァ書房
- 8) 舘昭 著 (2007) 『改めて「大学制度とは何か」を問う』 東信堂
- 9) 寺崎昌男 著 (2007) 『東京大学の歴史 大学制度の先駆け』 講談社学術文庫

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の田中までご一報頂ければ幸いです。

退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者： 石部雅亮 会員, 進藤修一 会員
休会者： 片桐良朋 会員

原稿募集

『大学史研究通信』第55号は2008年8月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）、もしくは本紙編集担当の田中までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

編集後記

松江の町は開府400年祭で珍しく賑わいを見せていますが、近年、この「開府400年祭」という標語を日本の城下町のあちこちでよく見かけます。これは偶然ではなく、関ヶ原で徳川方に荷担した「勝ち組」が、加増移封された土地で時代に見合った新しい城下町を一斉に築いたことに原因があります。出雲の国では、堀尾吉晴が、時代遅れとなった山城の富田月山城を捨て、経済的利点のある平城として、松江の町を切り開いています。

大学の世界でも、創立125周年などの記念行事をよく耳にするようになりました。2009年には、新制大学の60周年祭が全国各地で開かれることになるのでしょうか。ただし、大学の創立記念行事が多くなったことには、お金の絡む理由もありそうです。というのも、創立〇〇年祭を企画すれば、多少なりとも寄付金を集められるためです。やがては、安易な金集めとして、「創立132年祭」などのように、数字的にキリの悪い年にも強引に記念行事が開かれることになるかもしれません。

大学史を専門とする我々は、自校史の編纂等にやたらと駆り出されることになるかもしれませんが、お金集めのために利用されているのならば、腹の煮えかえることです。大学はいつからお金の亡者となったのでしょうか？

ちなみに、松江の「開府400年祭」は5年間開催されます。こちらは観光客目当ての引き延ばし策ともいえそうです。

(田中 正弘 記)

『大学史研究通信』第54号の編集は事務局・田中正弘が担当いたしました。

連絡先 〒690-8504 松江市西川津町1060
島根大学 教育開発センター
TEL: 0852-32-9848 FAX: 0852-32-6059
E-mail: masatana@soc.shimane-u.ac.jp

『大学史研究通信』第55号は、2008年8月31日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒635 - 8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良文化女子短期大学 吉村日出東研究室内 大学史研究会
TEL: 0745 - 52 - 1279 E-mail: yosimura@narabunka.ac.jp
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。
E-mail: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

井上 美香子	(九州大学大学院)	岡田 大士	(東京薬科大学)
沖塩 有希子	(青山学院大学)	杉谷 祐美子	(青山学院大学)
田中 正弘	(島根大学)	福留 東土	(広島大学)
吉野 剛弘	(東京電機大学)	吉村 日出東	(奈良文化女子短期大学)